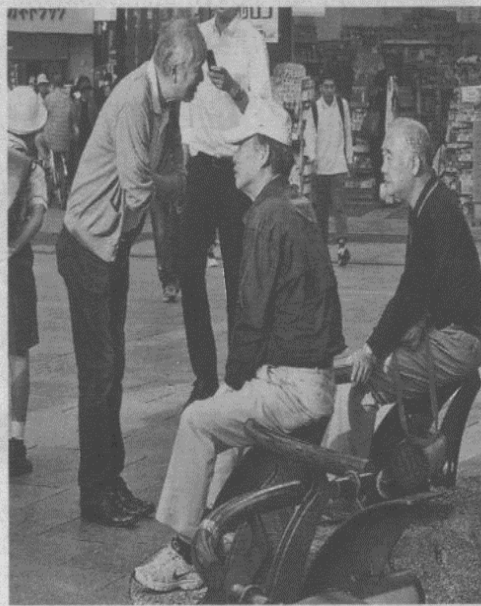


# あえて言わない医師 そもそも知らない医師

アルツハイマー型認知症の進行を遅らせる薬「アリセプト」で、いわゆる問題行動が生じた患者さん、それに戸惑い、ショックを受けるご家族の話を何度か紹介してきました。同様の相談は「つどい場 さくらちゃん」に多数寄せられていますし、私自身、認知症の薬や睡眠薬を併用し

▼まるお・たえこ 10年間、母、兄、父を在宅介護。2004年に介護者や介護従事者らの交流の場「つどい場 さくらちゃん」設立。「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで！」を共著で上梓。



写真はイメージ

在宅医療に力を入れていく医師に聞いたら、すぐに返事がありました。

「薬そのものが悪いというより、医師の処方

の仕方の問題がある。医師はアルツハイマー型認知症と診断すると、条件反射のよう

に、アルツハイマー型認知症は、脳内のアセチルコリンという神経伝達物質が減少していく病

などの薬は、アセチルコリンの濃度を高める作用がある一方、吐き

気、不眠、穏やかでない状態になる(不穏)、徘徊などの副作用が報告

では、なぜ薬を処方する時に、興奮を引き起こす可能性がある

本人や家族に伝えないのだから? 先ほどの医師によれば、「あえて言わない医師もいれば、知らない医師もいる」とのこと。悲しいことに、介護の現場で起こっていることは納得いかないことが多いです。